

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和6年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	京都大学	整 理 番 号	2 0 0 3
プログラム名 称	社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	杉野目 道紀	プログラムコーディネーター	原田 博司
1. 進捗状況概要 ・プログラムは順調に進捗しており、学生の満足度も高い。 ・プラットフォームを「課題を解決するためのさまざまなアプリケーションが依存共存する基盤」と定義し、小さなプラットフォームがネットワーク化され、共通部分が多いプラットフォームが融合され、さらに大きなプラットフォーム「PLAtNET (Platform + Network)」が形成される概念を示され、プラットフォーム学とは、 PLAtNET を構成する要素・情報・仕組み、構成要素に相互に作用する力を整理し、体系化するものであることが示された。令和6年6月に教科書を発刊している。 ・学年進行とともに、実習・グループワーク・学生の企画イベントなど、卓越した人材を育成するカリキュラムが準備されており、機能しているようである。 ・QE に関しては、独立した形の審査会の場合のみ実施されることを制度化するとともに、履修者に対して QE の趣旨を理解するよう説明を徹底している。優秀な学生の獲得についても問題なく、国際学会発表数や国際論文誌掲載数など KPI を上回っている。 ・志願倍率が低調であることの改善に関して、広報活動を拡大して実施し、令和6年度においては4月期で既に募集人数を上回る16名の応募があり、今後さらに応募人数が増える見込みである。 ・国内外の連携機関の協力のもと現場での実習や海外研修をフィールドリサーチインターンシップにて実施しており、学生間の交流促進に関しては、国際産官学シンポジウムや「京都大学卓越ワークショップ 2023」への参加、定期的な学生間定期交流ミーティングの実施などを積極的に推進しており、上手く機能している。 【大学院教育全体の改革への取組状況】 ・京都大学では、令和3年に大学院教育支援機構を発足させ、本プログラムを含む3つの卓越大学院プログラム及び5つの博士課程教育リーディングプログラムを同機構の下に統括運営することにより、各プログラム間で共通した教育の評価、質の保証、各種規定類や教務関係業務の共通化、プログラム間の連携などが可能になっている。 ・大学院教育支援機構では、全大学院学生を対象として広い視点と社会的視野を身につける機会を提供するため、部局の壁を越えた大学院教育支援機構教育コースを令和5年から順次開講しており、令和6年度には5コースが開講している。いずれのコースも修了要件を満たした場合、総長名の修了認定書が授与される。 ・外部有識者によるアドバイザリーボードが設置されており、有益な助言を得ることができている。なお、現在外部有識者として、海外の研究者を含めるための委嘱手続き中である。 2. 意見（改善を要する点、実施した助言等） ・本プログラムでは、農学分野への情報学の応用が上手く機能している。情報学は適用範囲が広く社会に近い学問であることから、京都大学内でプラットフォーム学を他分野へ展開されることが期待される。 ・学生ヒアリングからは、履修者は自らの道を自ら進んでおり、大学研究室のタコ壺			

から脱却しているようである。また、自らの研究に関する情報学の応用に関して改めて気付かされたことにより研究の幅が広がったと感じている学生が多い。

- ・学生ヒアリングから、プログラムの垣根を越えた学生間の横の繋がりに関して、大きく改善が図られたことを確認できた。

- ・学生ヒアリングからは、本プログラムに関して不満や改善要望事項はほとんどなく、極めて満足していることが明らかになった。

- ・履修者への研究費の補助に関して、補助金の使用可能期間を柔軟に対応していただきたいとの要望があった。